

窓辺

新型コロナウイルス
感染症の恐ろしさ

毛利 博

中国の武漢から世界中に蔓延した新型コロナウイルス感染症は、日本ではクルーズ船の船内で感染が拡散し大変な騒ぎになりました。あれから1年8カ月がたちました。第4波の感染拡大までは、大きな波にならずに済んでいましたが、7月に始まった5波では、感染性の強いデルタ株により日本中で感染爆発が起こり、大都市では医療崩壊が起こりました。今後とも変異株が出現し、6波、7波が起こる可能性があります。収束

にはまだまだ時間がかかるように思います。

新型コロナウイルスは、感染力が強く、感染後の後遺症も大きな問題になっています。これからは後遺症についても考えていかなければなりません。

日本は、平時の医療体制では世界に誇れる医療だったのですが、国難ともいえるこのような状況のなか脆くも崩れ去りました。病院の機能分担が叫ばれますが、遅々として進んでいないのが現実です。そこには

「おらが町のおらが病院」という意識が残っていることも大きな一因です。また、病院だけでなく、行政全体に未曾有の事象に対する危機管理体制が欠如していたことは否めません。システムの集約化を図り、トップダウンで動く体制を構築する必要があります。

これを機に、病院、診療所はいかにあるべきかを国民も巻き込んで真摯に考えるべきではないでしょうか。今こそ強いリーダーシップを持った人材が出てくれることを望んでいます。

（県病院協会会長）
藤枝市病院事業管理者